

## 人間情報科学科・教育情報工学研究室 (Laboratory of Educational Information Technology)

永岡 慶三  
(Keizo Nagaoka)



### 【研究室の概要】

人間科学部には教育工学を専門とする先生方が大勢います。そのため当ゼミは特に教育“情報”工学研究室と称していますが、まあ教育工学という大くりには相違ありません。私自身がこれまで、教育データ解析やeテストングなどの情報工学技術を研究手段としていたため教育“情報”工学としたものです。

要するに、教育や学習に関わる問題解決を支援する知見、技術、道具のことならどんな分野でも扱います。

### 【研究室の活動／ゼミ活動】

教育工学を専門とする研究室なのだから、研究室の活動すなわちゼミ活動がいかにあるべきかを真剣に考えています。専門知識の習得はもとより、大学で身に付けるべき社会人基礎力の育成を重視しています。

大学教育の形態は前世紀の教室講義主体から急激に変わりつつあります。遠隔教育、e-Learning、MOOCs (Massive Open Online Courses) と約10年単位ごとのキャッチフレーズの登場により、大学教育機能のパラダイム自体がドラスティックに変貌を続けています。物理的な移動をとまなう通学によってはじめて可能となるキャンパスでの対面教育は、大教室での多人数一方向の講義型授業形態から、少人数対話型・参加型の討論形式とする考えが主流となってきました。その集約的形式はゼミ活動であると考えられるのです。

「教育するはゼミにあり」これが我が研究室のモットーです。モデルは体育会です。大学の体育会では日々たゆまず練習が行われています。そこには伝統的に育まれた合理的かつ効率的な練習方法やしきたりが確立しており、そのような環境下で肉体的・心理的鍛錬がなされ一流の人間が育成されます。本ゼミは卒業研究など知的活動を種目とする体育会を目指しています。

3年の専門ゼミでは、学術論文の発表や専門書の輪読、仮テーマ発表などをもとに、プレゼンテーションや質疑・討論を中心に行います。プレゼンテーション能力(端的に論理的にわかりやすく伝える能力)は社会のあらゆる分野で必要だからです。また3年時には、異文化に接し、より広い視野を持つことを目的に海外合宿を行っています。これまでに、サンフランシスコのスタンフォード大学やUC

Berkeley (カリフォルニア大学バークレー校)、ロスアンゼルスUCLA (カリフォルニア大学ロスアンゼルス校)、ボストンのMIT (マサチューセッツ工科大学)などを訪れています。いずれも世界的に一流の大学です。



MITの学生たちとの交流 (2013年9月)

4年の卒業研究ゼミでは、卒論の調査・実験・分析の経過報告のプレゼンテーションと質疑・討論です。

国内合宿は主に懇親とコミュニティ形成を目的とした春合宿、4年生の卒論中間報告を主目的とした秋合宿があります。下の写真は春合宿の様です。

また、3年生、4年生、大学院生合同のゼミを行っています。合同ゼミではワークショップ、即興スピーチ、OB・OGを招いてのゲスト講演・討論があります。それらの目



国内合宿 (2013年5月)

標にはファシリテーション能力の育成が含まれます。

ゼミへの出席は無論必修ですが、ただ顔を出すだけでは出席にはなりません。実際にゼミの場で適切な意見や質問をして初めて出席とカウントすることとしています。ゼミの存在は、教科書では得られない暗黙知を体得すべく、知的情報を共有するコミュニティを形成する場だからです。そのコミュニティは在学生のみでなく卒業生に及ぶ同窓会の人脈形成をも目的としています。

#### 【就職実績】

トヨタ自動車（自らブラジルへ赴任）、フジテレビ（アナウンサー）、野村証券（その後ロンドンへ留学）、メガバンク（りそな・みずほ銀行）、NTTグループ各社、商船三井、伊藤忠テクノロジーソリューションズ、富士通ラーニングメディア、ベネッセ、リクルート、キーエンス、オービック、スズキ自動車、公務員、教職員、大学院進学。

#### 【研究室の研究活動】

具体的な研究課題として、卒論をもとに最近の学会研究会で発表された題名を下記に示します。

- ・視線一致型テレビ会議システムを用いた三大学での交流学习における2地点、3地点間の双方向性の比較、検討
- ・Raschモデルによる小規模CATのMoodleへの実装
- ・リアルタイムお笑い評価システムの検証
- ・「教科「情報」、六色ハット発想を用いたオンラインディスカッション授業の改善」
- ・三酔人経綸問答式オンラインディスカッション実践
- ・日本とタイにおける携帯電話の絵文字認識相違
- ・すきま学習におけるスマートフォン利用可能性および書籍・レジメ利用との比較
- ・選手視点を利用したサッカー視聴教材の評価

#### 【教員紹介】

学歴：1977年3月 慶応義塾大学大学院工学研究科博士課程修了。工学博士。

研究歴：1979年6月 神戸大学教育学部教育学センター・講師、同助教授。大学共同利用機関メディア教育開発センター（放送教育開発センター）・教授、同研究開発部長。2001年4月総合研究大学院大学文化科学研究科メディア社会文化専攻長。2004年4月早稲田大学人間科学学術院教授。

学会活動歴：日本教育工学会（2001～2003年、副会長）、電

子情報通信学会教育工学研究専門委員会（2004～2006年、研究専門委員長）、教育システム情報学会理事、日本教育工学協会理事、情報処理学会アドバイサリーボードメンバー、日本行動計量学会、日本テスト学会、日本認知科学会、日本ディスタンスラーニング学会 各会員。

研究表彰歴：日本行動計量学会学会賞（1986年）、日本教育工学会 論文賞（1993年）、日本教育工学会 論文賞（2002年）、ICCE2007 Poster Presentation Award（2007年）、日本機械学会「技術と社会部門」優秀講演論文賞（2008年）、日本テスト学会大会発表賞（2012年）。

#### 【主な研究業績】

仁木加奈子, 古田壮宏, 赤倉貴子, 東本崇仁, 西堀ゆり, 永岡慶三（2013-5-1）オンラインテキストディスカッションの発言分析におけるネットワーク分析手法の適用, 電子情報通信学会論文誌 Vol. J96-D, No. 5, pp.1391-1394, May. 2013.

Pokpong Songmuang and Keizo Nagaoka (2013-1-21) Development of Design and Analysis Methods for Item Bank for Constructing Multiple Equivalent Tests, AROOC2012 (The 4th Asia Regional Open Course Ware and Open Education Conference 2012), “Open Education En Route to Conceptual Society”, CD-ROM Proceedings 64-767, January 21st-22nd, 2013, Bangkok Thailand.

永岡慶三, 植野真臣, 山内祐平編著（2012-10-30）教育学選書第8巻「教育学における学習評価」, 日本教育工学会監修, ミネルヴァ書房. A5・232ページ, 永岡慶三執筆部分：第5章 学習評価とデータ解析, pp.208-220.

Tetsuo Kimura, Keizo Nagaoka (2012-08) Psychological aspects of CAT: seeking item selection rules which do not decrease test takers' learning self-efficacy and motivation. International Association for Computer Adaptive Testing Conference 2012 Australia Conference Program, 12.

Akira Haga, Keizo Nagaoka (2012-07) Development and evaluation of a health education system based on the transtheoretical model, The Journal of Information and System in Education, Vol.11-No1. 42-50.

植野真臣, 永岡慶三共編（2009-2-6）eテストニング, A5版269頁, 培風館.